

# 広野町長選挙 遠藤智氏が再選



任期満了に伴う広野町長選挙が11月21日に行われ、現職の遠藤智氏が三期目の当選を果たしました。

遠藤町長は、12月9日（木）に初登庁し、大勢の町民や役員職員から盛大な拍手で迎えられ、贈られた花束を手に三期目の町政の第一歩を踏み出しました。

その後行われた訓示式では、職員を前に「全ての町民の声に耳を傾け、全町民のため公明正大な町政運営を行い、町民主体のまちづくりを進め、次の世代へと引き渡せる町を創生すべく、全身全霊・全力で取り組んでいく決意であります」と、町政の方針を述べ、広野復興創生への意欲を新たにしていきました。

遠藤町長の三期目の任期は、12月8日から4年間となります。

## 要望活動を実施

### 双葉地方町村会要望活動を実施

双葉地方町村会は、12月2日（木）、3日（金）の2日間、関係省庁に対して東日本大震災、東京電力福島第一原発事故で被害を受けた双葉地方の復興・再生に向けた要望活動を行いました。

復興庁に対しては浜通りへの整備が計画されている国際教育研究拠点について、長期的な予算と人員の確保、基本構想の早期策定やロードマップの整備などを求めました。

双葉地方町村会長の遠藤町長をはじめ各町村の首長が西銘復興大臣らに要望書を手渡しました。



### 福島県町村会、復興庁に要請活動

11月18日（木）、福島県町村会の遠藤智広野町長はじめ、同副会長の大宅宗吉南会津町長、坂本浩之三春町長が復興庁を訪問し、西銘恒三郎復興大臣に廃炉や汚染水・処理水対策、被害が起きた場合の実態にあった賠償を講じるよう要望しました。

また、震災被災者の一部医療負担の免除などの継続や復興財源の確実な確保、期間困難区域の全域の避難指示解除などに加え、JR只見線の安定的運行に向けた財政支援について、福島県の復興・再生が果たせるよう訴えました。



## 第3期町政における所信表明

### これまでの8年を振り返って

これまでの8年を振り返りますと、平成26年は被災の町から歴史と文化を継承し、新しい町、希望の光がキラリと光る町を創っていくために「希望の年」と目標を掲げ、平成27年は復興・再生の種が芽吹き育つ「成長の年」、平成28年は弾みをつけて加速化する「躍動の年」、平成29年はより着実に前進し、より大きく成長して発展する「前進の年」、平成30年は新しい広野町の創生へと進化を進める「邁進の年」、平成31年はふたば未来学園中高一貫校の開校や認定こども園の開園したこと、令和元年は「新生の年」、令和2年は東日本大震災並びに原子力災害から10年という節目の年を迎えることから「飛翔の年」、そして、今年第2期復興・創生期間となる新たな10年へ向けて「躍進の年」と位置付け、創生のパイオニアとなるべく、生活再建を念頭とした安心・安全な共生のまちづくりを進めてまいりました。

### 広野町の将来への展望に向けて

町の将来を展望する中で、安心・安全な共生のまちづくりには必要不可欠であります。

#### 【医療・福祉の充実】

平成31年1月、町、社会福祉協議会、町内の2医療機関による地域包括ケアシステム構築などに関する協定を締結し「福祉のまちづくり宣言」を行いました。本年4月、町内で唯一の特別養護老人ホーム花ぶさ苑を事業継承し、いわき市のときわ会グループを指定管理者として、公設民営の方式により運営を行っています。また、町独自の健康福祉手帳の作成や広野健康ポイント事業など、健康・長寿を意識した施策にも取り組んでまいりました。

#### 【教育の充実】

認定こども園や小学校などから形成され、現在約1000人の園児、児童、生徒が修学する「教育の丘」では、第二次広野町教育ビジョンに基づく教育活動を展開し、ふたば未来学園中高一貫校との連携を



教育の丘

見据え、広野町立学校独自の魅力ある教育の創出に取り組んでいきます。震災後、静岡県で活動を継続してい

### 確かな実績で町民主体のまちづくりへ

一時滞在している方が約2000人おります。住民と復興関連従事者の間には接点がなく、お互いに日常生活を送る上でトラブルなどが起きることが懸念されます。行政として町民の暮らしを守るのは当然ですが、同時に、廃炉を着実に進めるためにも復興関連従事者の暮らしを守ることが求められます。既存の住民と復興関連従事者が共に支障なく生活できる環境を整えてまいります。

引き続き、町民主体のまちづくりを目指し、復興・創生を成し遂げ「未来」へと発展させるため「医療福祉体制」、「安心安全」、「人材育成」、「持続可能な発展」、「情報化社会」を五つの柱に掲げ、将来にわたり町民の皆さまと共に広野町の誇りとなる事業を展開してまいります。ふるさとへの熱い思いから、この歩みをさらに前進させ、いかなる困難に対しても、正面から立ち向かい未来へ発展するまちづくりを進め、私たちの愛



太平洋から望む広野町の街並み

当町の復興は道半ばです。これまでも『町民主体のまちづくり』を進めてきましたが、今後も未だ避難中の方も含めたすべての町民との対話を大切にしながら、次の世代へと引き渡せる町を創生していきます。当町から双葉地方、相双地方全体から県内を見据えながら、福島県の被災地が希望を感じることができるよう、復興・創生を果せるよう、創生のパイオニア、確かな創生へのまちづくりの創出へ向け開拓し、全身全霊・全力で取り組んでまいります。